


まきどき・植えどき・収穫どき

# どきどき情報 10月

## 野菜の作業 冬～春期にかけての品目確保と来年の生産に向けての準備をしましょう！

種まき	定植（植付け）	栽培のポイント
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホウレンソウ</li> <li>・二十日ダイコン</li> <li>・コマツナ</li> <li>・シュンギク</li> <li>・エンドウ</li> <li>・ソラマメ</li> </ul> <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タマネギ</li> <li>・イチゴ</li> </ul> <p>など</p>	<p>【ハクサイ】</p> <p>秋冬出荷用として、順調に生育していると思われませんが、肥培管理について、記述してみたいと思います。</p> <p>直まき栽培において雑草は、生育後半では外葉が地面をほとんど覆ってしまうので影響は少なくなりますが、初期の生育には大きく影響します。そこで硬くしてしまった土壌を軟らかくして通気性を良くし根の伸長を促すと同時に雑草防除や肥効の促進を目的に中耕・除草を行いましょう。</p> <p>なお、中耕等での断根による障害は生育が進むほど大きくなるため、結球始期までには終了させましょう。</p> <p>かん水は、時期によって効果に差が大きく現れますが、干ばつの影響を最も受けやすいのは生育中期の結球始期を中心とした時期ですので、この時期の過乾燥には注意をしまししょう。</p> <p>(注)結球期後半でのかん水は、特に高温期の作型では軟腐病を誘発させやすいので注意が必要となります。</p> <p>また、追肥を行う場合は、結球が始まる少し前の本葉が10～12枚程度の時期に行います。直まきでは順調な生育課程にある場合は、は種後35日位の頃となります。</p> <p>追肥量は、a 当たり窒素量を0.8～1.0kg、加里0.7～0.9kgを1～2回で施用します。なお、<u>窒素肥料の多施用や追肥時期の遅れは縁腐れ症やゴマ症を助長する傾向がみられるほか、追肥時期の遅れは、球の肥大不良や軟腐病を多発させる誘因となるので</u>直播ではは種後40日頃までに、移植栽培では定植後20日頃までに行うようにしまししょう。</p>
	<p>収 穫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハクサイ</li> <li>・ネギ</li> <li>・サトイモ</li> <li>・ダイコン</li> <li>・ニンジン</li> <li>・チンゲンサイ</li> <li>・長芋</li> </ul> <p>など</p> 	

### 【アスパラガスの茎葉の刈り取り】

平均気温が16℃以下になる頃から若茎の萌芽も止まり、養分の転流時期となります。それまでに茎葉に蓄えられた養分は根株へ蓄積されます。養分の蓄積は地下茎から発生する貯蔵根（太い根）に行われ、翌春の萌芽（春どり収穫）に使われますので、貯蔵養分の蓄積量の多少は収量に大きく影響します。

したがって、無駄のない効率的な転流促進のため次の点に注意して管理を行いましょう。

- ・萌芽終了後もしっかりかん水を行います。土壌の乾燥状態を見ながらできるだけ遅い時期までかん水を行うことにより翌年の収量の増加につながります。ただし、滞水するようなかん水は避けてください。
  - ・霜に2～3回あって8～9割の茎葉が黄化するのを待ち（早期の刈り取りは、養分の根部へ転流ロスが多くなる。）刈り取りは地ぎわ部から行い、病虫害の越冬しにくい環境にします。
- なお、茎枯病等の病株は引きづらないようにしながらほ場外へ持ち出してください。
- ・盛り土は通路に戻し、株もとの残渣はていねいに取り除きます。

#### 新たな作型の検討《越冬キャベツの定植》

標高600～500m以下の地帯では、秋に定植し春早い収穫となる越冬栽培が可能と思われまます。

9月下旬から10月上旬に播種し、本葉3～4枚程度で10月下旬～11月上旬に定植するもので、4月定植と比べると半月ほど早期出荷が可能となります。

早播きによる大株での越冬は、抽台してしまう可能性があるため注意をしまししょう。



# 農業豆知識

## 《長野県で推進しているぶどうの新品種》

本県では、ぶどうの「巨峰」や「ピオーネ」（無核）を基幹品種として推進していますが、近年新しい品種としてナガノパープルを補完品目に加え推進しています。



「ナガノパープル」

・ 「ナガノパープル」

長野県果樹試験場で「巨峰」に「ロザリオピアンコ」を交配して育成し、平成16年に品種登録された3倍体の無核品種で、皮ごと食べる品種です。果皮色は紫黒で果粉が多く、果粒は倒卵形で10～14g程度あり、果皮のはく皮は困難です。果肉の特性はやや硬く、歯切れが良くフォクシー香があります。糖度は18～21度、酸含量は0.4～0.5%程度です。栽培面では、樹勢は旺盛であり、新梢は太くなります。

商品性のある大粒の果実を生産するためには、ジベレリン処理が不可欠となります。

また、収穫期前の降雨により裂果が発生する可能性があることから施設栽培を前提とします。

**\*お詫びと訂正**・・・前号でりんごの新品種「シナノゴールド」を紹介し、その中で交配品種を「ゴールデン・デリシャスに秋映を」と記述してしまいましたが、正確には「ゴールデン・デリシャスに千秋」でしたので、お詫びと訂正をさせていただきます。

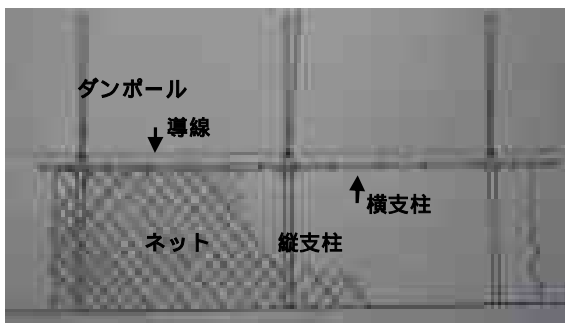
## 《獣害対策のための電気柵の紹介とポイント》（事例紹介）

近年、多くの野生動物による農作物被害が増加しており、農家や地域では知恵をしばり様々な手法や方式でその対策を行っていますが、その被害は逆に拡大しているように思われます。そこで今回は、生息が広がっていると思われるハクビシン（タヌキ）からの被害対策としての電気柵の設置方法等の事例を紹介します。

ハクビシンは、大きさ50～60cmで尾まで含めると約1m位になり、名のとおり鼻から額にかけて白い線があります。農作物被害は果実や果菜類など様々なものに広がっています。行動と運動能力としては、かなりな高さまでジャンプすることやバランス感覚が優れており垂直に張った針金に登ったり、水平に張った針金の上も渡りあることができるようです。しかし、地面と障害物の隙間をくぐるのは得意ですが、自ら穴を掘って侵入することはしないという習性を持っているようです。

そこで、これらの特徴を活かした防護柵の設置例を紹介します。これは、被害の先進地埼玉県で考案されたもので、柵（ネット）の上部に電気柵を設置する方法でハクビシンが「何にでも登る」「侵入のため自らは穴を掘らない」という習性から考えられたもので、ネットに登らせて上部で感電させることを可能にしたものです。設置方法としては、柵の支柱や横支柱は直管パイプを利用し、周囲に裾を隙間無く埋めた防風網等を設置（ここまででもタヌキには一定の効果があると思われる）し、その上部に電気柵の導線を5cmの間隔になるように横に強く張ります。

なお、横支柱は柵の外側に取り付け、ネットは横支柱に巻き付けずに取り付けることが、感電させやすくするポイントとなるそうです。（関心のある方、詳しい資料等がほしい方は支援センター又は農業改良普及センターにご連絡ください。）



支柱及びネット・導線の張り方



設置のポイント(横支柱は、支柱の外側に)

(参考)

この方法そっくりではありませんが、今年、伊藤組合長がスイートコーン畑で「防草シートと電気柵」で防護柵を設置したところ、ほとんど被害がなくなったとのこと。（「タヌキ」とのことです。）

あさつゆ連絡先 電話:FAX 41-1062

技術事項作成協力：上小農業改良普及センター  
地域係 中澤普及員（25-7156）